



営農NEWS



農作物の安全・安心と病害虫防除の技術向上 を図るために 防除日誌を必ずつけましょう

農薬は適正に使用することにより、病害虫や雑草から農作物の被害発生を防止することができますし、その作物の食品としての安全性を保障することができます。

農薬の使用記録として防除日誌を作成しておきますと、食品としての安全を証明する資料（消費者等から農薬の使用履歴を求められた場合や農薬問題などが発生した時に、適正使用の確認や原因究明など）として役立ちますし、また、生産者がこれまでに行ってきた防除や管理作業を振り返ることで防除技術の更なる向上を図ることができるなど、より安全で安心、的確な農作物栽培を推進することができますようになります。

〔日誌記帳のポイント〕

- 1 防除日誌は圃場ごとに作成することとし、防除実態に合わせたように記録しておきましょう。いつ、どの作物に、どこの圃場で、どの農薬を、どれだけの量や濃度（希釈倍率）で、どのように処理したかなど、安全性に関するラベルに記載されている農薬使用基準の事項は、詳細に記録しておきましょう。
- 2 農薬処理時の各種病害虫の発生状況（どのような場所に、どれくらいの発生程度など）や作物の生育、圃場の環境なども、できるだけ詳細に記録しておきましょう。また、農薬処理後における防除効果の判定も、必ず記録して、次の防除の参考にしましょう。これらの情報は貴重な生産者の個人情報で、これらを積み重ねて検討することにより、次の病害虫の発生予測（どの時期に、圃場のどの辺に発生しやすい）や防除計画などの参考になります。
- 3 下記の防除日誌（例）を参考に、自分の栽培する対象作物、栽培体系、防除の様相など、それぞれ自分にあった様式を工夫して記録し、継続することが大切になります。

（参考例）防除日誌（平成〇〇年〇月～平成〇〇年〇〇月まで）

圃場場所（No.〇）	面積	作物名	播種または定植月日	収穫期間
〇〇地区〇〇番地 （ハウス東側〇棟目）	〇〇 a	□□□□□	〇月〇日 播種 〇月〇日 定植	〇月〇日～ 〇月〇日

用途	薬剤名	処理方法	希釈倍数	使用量 (10 a 当たり)	使用月日	使用目的	処理時またはその前後の状況などメモ	防除効果等 (○×△)
殺菌	□□□フロアブル	散布	2 0 0 0 倍	2 0 0 ℓ	〇月〇日	〇〇病の防除	ハウス出入口の手前左側から発生、直ちに薬剤散布	○：効果高い
殺虫	□□□粒剤	株元処理		3 kg	〇月〇日	〇〇ムシ、〇〇ムシなどの対策	予察注意報が出たので予防処理	△：□□ムシの被害が発生
除草	□□□乳剤	畦間処理		4 0 0 ml を水 1 0 0 ℓ に希釈	〇月〇日	□□□草が多いので	圃場の〇〇側左半分が多発生した	△：□□草が残る
殺菌	□□□水和剤	散布	8 0 0 倍	3 0 0 ℓ	〇月〇日	〇〇病の防除	1 週間ほど天候がぐずつき、株元が変色している	×：効果低い
植物調整	□□□□□□	散布	5 0 倍		〇月〇日 開花当日	着果促進	曇天であったが、着果良好	○：効果高い
殺虫 殺菌	□□油剤	土壌灌注		2 0 ℓ	〇月〇日	〇〇センチュウ、 〇〇病の防除	一昨年の栽培で多発生。前作は□□□を栽培。	○：かなり発生低下

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040